

# ネット局制作担当者評価レポート(1)

下市情報センター所長 堀 龍 雄

H i - O V I S市民大学講座ネット番組に関する報告書を作成するに当たり、当情報センターもネットに組入れて下さったことに対し心から深謝申し上げます。現在CATVは高度情報化社会における重要な役割を各方面から期待されています。しかし、CATVの健全な発展に当って解決すべき事柄は山積され、その中でも特に番組ソフトの問題については将来に渡って重要な課題であり、この番組ソフトを考えずしてCATVの発展を図るのは不可能と思われます。

今後番組ソフト供給の円滑化のためにCATV関係者は積極的な措置を講ずる時期に来ているのではないかと思います。この意味において今回のH i - O V I Sのネット放送実験は、現在のCATV関係者にとって強い刺激であり福音となったでしょう。これにより全国CATV局の組織化の必要性がクローズアップされ、今後の最優先課題となるのは必至でしょう。

CATV局には、空中波のテレビ局と異なり、エリアが競合しないという利点があるがこれらのソフト流通に大きく前進するのではないのでしょうか。現在のCATV局は少人数で運営されている為、ブラウン管に登場するスタッフは限定されるのが現状で、これが視聴者にマンネリを誘う恐れがあります。この弊害を打破する為にも、CATV間のソフト流通は大きなメリットが含まれ、是非実現したいものです。

当情報センターは、このネット放送を開始するに当たり、この番組の高度な内容に視聴者はいかなる反応を示すかに大きな関心を寄せていました。特に当町の受講生は主婦が多く、グループでの申し込みも見受けられた。これは臨教審の答申にもあるように生涯教育としての社会教育への住民の求めが伺えます。受講生はこの講座の異った角度からの問題提起に興味を示したようであります。我々としては、今後この番組で提起された問題について、各種のサークルで論議されることを期待しています。

また番組制作者は、いかなるニーズのソフトを視聴者に提供すれば満足を得られるのか試行錯誤の段階であり、今回のネット放送はこれらの問題についても重要なヒントを提示いただきました。なぜならばこの市民大学講座のようなハイレベルの内容にいかに視聴者を引きつけ、興味を持たせるか大いに参考になりました。

最後にこの番組は空中波のテレビ局にない視聴者も同時に番組に参加するというこの“スタイル”こそ、これぞCATVの理想像ではないかと思われます。我々はこれらの番組からご教示いただいた数々を今後の番組制作に生かす所存です。